

編集後記

本号の特集は“糖尿病網膜症”だ。糖尿病に対する新しい治療薬が開発されてから劇的に血糖コントロールがよくなり、現在、糖尿病治療への取り組みが大きく変化してきている。実際に10年前に比べると格段に血糖コントロールが良い患者さんが多いことに気づく。インクレチンなど血糖を顕著に下げる薬の普及とともに、DPP-4阻害剤によって糖を尿中に放出させて血糖を低く保つ治療が大きく状況を変化させている。本特集にあるような眼科的なアプローチが進歩したことに加えて糖尿病自体のコントロールがよくなることにより、さらに糖尿病による失明が防げるようになると期待される。

また、最近注目されている薬剤に“メトホルミン”がある。古くからある血糖コントロール薬だが、なぜか昔からメトホルミンを摂取している患者に糖尿病性合併症が少ないことが知られていた。また、糖尿病患者は平均して10年寿命が短いといわれていたが、メトホルミン摂取群ではその差が少ないことが有名であった。実は、アンチエイジング医学の世界ではメトホルミンは糖尿病薬というよりは“アンチエイジング薬”として脚光を浴びている。副作用が少ないことか

ら2年前よりFDAの認可を得て、加齢を遅くする薬剤としてのメトホルミンの臨床研究が始まった。プラセボ群との比較で、1) 心血管障害、2) 認知症、3) がんの発症率を検証し、優位性が示されたらアンチエイジング薬として承認もあり得るという画期的な研究だ(<https://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT02432287>)。研究を主導するNir Barzilai教授によれば順調に進んでいるとのことである。

また、もうひとつの流れも注目だ。これは“生活習慣病は生活習慣で治す”という概念の提唱である。従来までⅡ型糖尿病のような生活習慣病に対しても第一選択は“薬”であった。ところがこれでは副作用も多く健康寿命も延びず、医療費もかさむということで見直しが行われている。考えてみれば当然である。生活習慣による糖尿病は生活習慣の改善で対抗する。適度な運動をして、食事に気をつけて、十分な睡眠をとって、ストレスをコントロールする。一病息災という言葉があるが、まさに糖尿病は一病息災の代表といえる。血糖値に気をつけることで健康増進を促す可能性があるとは私は考えている。

(坪田一男・記)

編集：飯島裕幸・富田剛司・坪田一男・後藤 浩・雑賀司珠也・門之園一明・三村 治
編集顧問：所 敬・小口芳久・白井正彦・澤 充・谷原秀信・岸 章治

「眼 科」 第60巻 第9号 9月号

2018年9月5日発行（毎月1回5日発行）
定価（本体2,800円＋税）

年間講読料金 定価（本体42,100円＋税）
〔年間13冊（臨時増刊号を含む）の誌代〕
〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03 (3811) 7165〔編集室直通〕

Tel 03 (3811) 7184〔営業部直通〕

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 横山印刷株式会社 Tel 03 (3622) 6161

広告申込先 福田商店 Tel 06 (6941) 5600

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

- ・JCOPY＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-3513-6969、FAX：03-3513-6979、e-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。